

京都観光の状況について

1 平成28年の状況

- (1) 訪日外客数は2400万人を超える。(前年比21.8%増)
京都における外国人宿泊客数(延べ泊)
 - 前年比6.8%増(京都文化交流コンベンションビューロー:外国人宿泊状況調査)
 - 前年比5.4%増(観光庁:宿泊旅行統計調査(速報値))インバウンドが好調,市内主要33ホテルの年間稼働率は89.1%
- (2) 日本人延べ国内旅行者数は全体で前年比5.0%増(宿泊2.8%増,日帰り7.4%増)(観光庁:旅行・観光消費動向調査(速報値))
京都における国内宿泊客数(延べ泊)
 - 前年比4.5%減(京都文化交流コンベンションビューロー:外国人宿泊状況調査)
- (3) 海外の主要雑誌で高まる京都の評価
 - ・ ワールドベストシティ(トラベル+レジャー)5年連続のベストテン入り
 - ・ 世界で最も文化的魅力の高い観光都市ランキング1位(トラベル+レジャー)
 - ・ 読者投票ベストシティ部門1位(英国有力旅行雑誌「ワンダーラスト」)
 - ・ 世界で最もロマンチックな20都市(世界有数の米経済誌「フォーブス」)
- (4) 新施設,受入環境整備
 - ・ 京都鉄道博物館開業,京都駅八条口駅前広場整備事業の完成
- (5) 新たな観光推進体制の強化,持続可能な京都観光への取組
 - ・ 京都市版DMOの構築と運営
 - ・ 京都市宿泊施設拡充・誘致方針策定,
今後,主な宿泊施設の建設予定 約5,000室
地価公示(国土交通省)京都市商業地 前年比+6.5%
 - ・ 京都観光経営学講座の実施,これらを踏まえた京都大学経営管理大学院での「観光経営科学MBA」の開設(平成30年度)
 - ・ 京都市住みたい・訪れたいまちづくりに係る財源の在り方に関する検討
これまでの議論から,「駐車場への駐車」,「宿泊」及び「別荘の所有」の3つの負担を求める行為について論点整理が行われ,宿泊税を優先的に導入する方向で議論が行われている。

→混雑,国内宿泊客の減少,観光客の分散化が課題

2 平成29年の動き

- (1) 文化庁の京都移転に先立ち、地域文化創生本部が発足
文化庁移転推進に向けた今後の取組
 - ① 日本の文化振興のために京都が果たす役割
 - ② 受入体制の整備
 - ③ 移転に向けた機運の醸成
- (2) 日本の“こころの創生”を牽引する「世界の文化首都・京都」の実現
文化を軸とした総合的な政策を、京都への全面的移転が決定した文化庁と共に推進
 - ・ 京都文化カプロジェクト2016－2020
 - ・ 東アジア文化都市2017京都
 - ・ 大政奉還150周年記念プロジェクトの実施 等
- (3) 京都の魅力を承継，活用
 - ・ 琵琶湖疏水通船復活事業
 - ・ 円山公園再整備 等
- (4) 混雑緩和，観光客分散化など観光客満足度向上の取組
 - ・ 市バスの混雑緩和（前乗り，後ろ降り方式の検討），一日乗車券カードの価格適正化の検討
 - ・ 観光客分散化の取組の着手，区役所等を通じた地域連携事業の強化
- (5) 市民及び観光客の皆様の安心・安全の確保
違法な「民泊」施設の適正化指導の強化